

5) 2019年度日本学術振興会賞候補者の推薦依頼(受付期間4/4-9) →HP, geo-flash, Newsに掲載。日本国籍か5年以上日本国内研究機関に籍を置き、今後も継続予定の外国人、45歳未満博士号取得者、女性候補者の推薦歓迎。

6) コスモス国際賞受賞候補者推薦依頼(推薦切4/12) →geo-flash掲載。国籍、性別、年齢いずれも不問、ただし現存者。

<その他>

・事務室賃貸の契約(井桁金網(株))を更新(2019/4/1~2021/3/31)。賃料変更なし、更新料271,404円(税込)

<会員>

1) 今月の入会者(正会員 7名)

正会員(4名) 組坂健人 土屋裕也 中山健太郎 楠田哲也

正(学部学生割引)会員(3名) 永田有里奈 瀬川いづみ 浅野航平

2) 今月の退会者(正会員3名)

中村めぐみ 赤瀬川幸治 影山典史

3) 今月の逝去者(3名)

名誉会員 吉田 尚(3/1)

4) 2019年2月末日会員数

賛助:27, 名誉:52, 正会員:3601(正会員:3416, 正(院割)会員:176, 正(学部割)会員:9), 合計3680(昨年比-57)

5) 2019年度50年会員顕彰者

<会計>

・決算予想および2019年度予算案:審議事項とする。

3. 広報部会:広報委員会(坂口・小宮)

1) フォトコンテストの審査結果:最優秀賞1, 優秀賞2, ジオパーク賞1, 地質学会会長賞1, ジオ鉄賞1, スマホ賞1, 入選5, 佳作4(賞金なし)

2) 一家に1枚ポスター「日本列島7億年」のプレスリリース:文科省でのプレス発表の日時、3月27日(水)14時の予定。学会はその後に投げ込みをし、geo-flashで会員にも知らせる。(その後、4/9(火)への日程変更の連絡あり)

4. 学術研究部会(磯崎・ウォリス・岡田・辻森)

(1) 行事委員会(岡田)

1) 年会発表登録・プログラムの作成システムと講演要旨の公表方法について

・現在は年会発表登録までを採用しているシステムconfitの全機能を採用するとした場合に関連して、講演要旨のオンライン化についての検討。

・J-STAGEへの公開にあたりこれまで無料であった掲載作業が、J-STAGEのデータ受入形式の変更により今後は18万円ほどの有料となり、これまで同様の利用で冊子体を作成した場合はこの分の経費が上乘せとなる。

・経費的には、confitの全機能を採用し要旨をオンライン化する場合と、従来どおりでオンライン公開作業の経費を追加した場合とでは殆ど変わらない見込。ただし、前者の

場合にはプログラム作成における行事委員会及び事務局の仕事の負担軽減も見込まれるが、冊子の要望がある場合については、別途検討の必要がある。

2) レギュラーセッションの現状

(2) 国際交流委員会(ウォリス)

タイ訪問は3月28日-31日、タイ地質学会とDepartment of Mineral Resources 代表と会谈する予定。

(3) JIS, 標準担当(中澤)

5. 編集出版部会(大藤・田村)

(1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)

1) 編集状況報告(3月20日現在)

・2019年投稿論文:16編[内訳]総説1(和文), 論説8(和文7・英文1), 報告3(和文2・英文1), 巡検案内書3, 口絵1(和文1), 査読中:26, 受理済み:27(うち特集号10)

・125巻3月号:通常号5編 60頁, 3/22校了予定。

・125巻4月号:通常号5-6編 約60頁, 入稿準備中。

2) 125周年記念特集号状況(2019年3月20日現在)

3) 地質学雑誌の投稿数増加に向けた方策を検討

(2) アイランドアーク編集委員会(田村)

出版状況報告 資料参照説明

(3) 企画出版委員会(小宮)

特になし

6. 社会貢献部会(星・廣木・中澤)

地質の日:街中ジオ散歩

7. 地質技術者教育委員会

・JABEEは地球資源分野で運用中のプログラムが9大学であり、ピーク時の11プログラムから減少している。

・JABEE審査における地質系大学教員の審査員が少ないと、「地球・資源およびその関連分野運営委員会」で指摘されているので、地質学会としてできる限り審査員を出すようにすべきである。

・3月5日開催の土質・地質技術者生涯学習協議会に佐々木副会長が出席した。

・CPD(継続教育)については、技術士資格の更新システム導入のために、文科省認可のCPD登録法人設置の動きがある。地質学会が加盟する「土質・地質技術者生涯学習協議会」の活動にも影響があるので、今後動向を注視する必要がある。

・当委員会は山本前副会長の急逝後、委員長を決めておらず、また委員会の再編もされていないので、これまで委員長代理的な動きをされてきた天野理事と執行体制を見直し、担当理事である佐々木副会長とで委員会再編を行う予定である。

8. ジオパーク支援委員会(平田)

・特になし

9. 地学オリンピック支援委員会(星)

・特になし

10. 県の石支援委員会(辻森)

・特になし

11. 125実行委員会(佐々木)

・4月17日開催予定の最後の委員会で、125周年事業のまとめを行う予定。

・ニュース誌に掲載された125周年関連の記事は、2014年4月号から2019年1月号までで50編余りとなる。これらを集めてアーカイブス集として保存し、今後の周年事業企画時の基礎資料としたい。

・125周年関連の予算については、緒方理事が取りまとめ中。寄付が予想以上に多く集まったことや、9月6日の地震のため記念の国際シンポジウムが実施できなかったことなどから、経費的には好ましい決算となりそう。その結果、学会の財産であるいろいろな引当金からの繰入額をかなり少なくすることができそうである。

12. 名誉会員推薦委員会(佐々木)

・名誉会員候補者の推薦は、2019年2月9日の締め切りまでに1名あった。名誉会員推薦委員会での検討を行った後、同1名を名誉会員候補者として、推薦理由を付して4月6日の理事会に推薦することにした。

以上

2019年4月6日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長(代表理事) 松田博貴
署名人 執行理事 斎藤 真

2018年度第9回執行理事会議事録

期日:2019年4月6日(土)11:00~13:00

場所:北とびあ 902会議室

出席者:松田会長, 佐々木副会長, 平田副会長, 斎藤常務理事, 安藤, ウォリス, 大藤, 緒方, 岡田, 小宮, 坂口, 中澤, 西, 廣木, 星, 狩野, 杉田,(事務局)橋辺

欠席者(委任状提出あり, カッコ内は委任者):磯崎, 田村, 辻森

*定足数(12, 委任状含む)に対し, 出席者15名, 委任状3名, 合計18名の出席

*3月議事録を承認。

I 審議事項

1. ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請にかかる机上審査について(斎藤):日本ジオパーク地域からの世界ジオパーク申請に向けて、国内のピアレビュー手続きについて、「日本地球科学評価機構」の設置も含めて準備を始める。平田, 斎藤が主に担当する。

2. 東赤石山の山小屋「赤石山荘」の存続支援要請に応え、新居浜市および愛媛県へ提出する要書の確認とNews誌記事について(松田・ウォリス):要望書の文案を確認し了承した。微修正をして捺印後提出する。News

誌記事については、修正箇所を指摘し、著者らに修正を要請する。

3. Island Arc編集委員長への謝金について：継続審議として同編集委員会内での状況を確認する。

4. タイ地質学会との学術交流協定(MOU)の締結：タイ地質学会訪問の状況報告をうけてMOU案を確認し、締結を承認した。

5. 理事会議事確認

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 事務局契約職員採用について(佐々木・緒方)：新規職員(有期雇用)採用の経緯報告と、採用者は4/16(月)から勤務する予定が報告された。

2) 大型研究を提案の件(小宮)：「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築(案)」は、3/23執行理事会で閲覧後、理事から寄せられた修正を加え3/29に提出。連合大会でのプレゼンテーション、投票(5/27)を含め今後の審査過程について簡潔な報告があった。理事会、総会(5/25)等でも簡単に紹介する。

3) 今年度の科研費申請は120万円で採択された。

2. 運営財政部会：総務委員会(緒方・西) <共催・後援依頼、他団体の募集等>

・学術振興会「2019年度育志賞」の募集案内、受付6/3-6/7、大学院博士課程在学者34歳未満

・藤原科学財団「藤原セミナー」の募集、2020/1~2021/12開催のセミナー、2国間会議、定期開催のものは除く、参加者50~100人(うち外国人1/5程度)、日本国内開催で2~4日以内、申請書メ切 7/31

<その他>

・ダイヤコンサルタント(株)役員変更挨拶状(社長野口康彦氏変更なし)

・資源素材学会役員変更挨拶状(会長：月橋文孝氏 副会長：尾原祐三氏・沢村一郎氏) <会員>

1. 今月の入会者(正会員5名)

正(院割)会員(5名) 安藤宏太、佐藤泰典、佐藤寛紀、石坂湧人、松下実礼

2. 今月の退会者

2018年度末退会者(111名)、除籍者(63名)

3. 今月の逝去者 なし

4. 2019年3月末日会員数(3月末での退会・除籍者を考慮した数字)

賛助：27、名誉：51、正会員：3424(正会員：3245、正(院割)会員：171、正(学部割)会員：8)、合計3502(昨年比-72)

5. 2019年度50年会員顕彰者(39名)

青島陸治 足立 守 石川政憲 猪俣道也 岩田 修 大木公彦 岡田正明 久保和也 小林文夫 佐藤博明 佐藤光男 下山正一 庄司勝信 田結庄良昭 滝田良基 田中 隆 田中 剛 田中伸廣 田村幹夫 塚田有一郎 塚原弘昭 手塚恒人 照井一明 豊蔵 勇 鳥海光弘 馬場勝良 樋口茂生 藤本幸雄 星野光雄 増田富士雄 宮田隆夫 村松憲一 森山義博 両角芳郎 矢口良一 山根一夫 山本哲也 吉田武義 吉松敏隆

<会計>

・決算概算および2019年度予算案：会員数減に対応した収支の見直しを、WG設置も含めて、財務状況の検討する。

3. 広報部会：広報委員会(坂口・小宮)

斎藤常務理事より、札幌での地質情報展(3/29-31)については1200名の参加者を得て盛況であった。講演会も200名ほどの出席者が満席状態であったことが報告された。

4. 学術研究部会(磯崎・ウォリス・岡田・辻森)

(1) 行事委員会(岡田)

・とくになし

(2) 国際交流委員会(ウォリス)

・タイ地質学会訪問の報告 → 交流協定については審議事項

(3) JIS、標準担当(中澤)

5. 編集出版部会(大藤・田村)

(1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)

とくになし

(2) アイランドアーク編集委員会(田村)

とくになし

(3) 企画出版委員会(小宮)

とくになし

6. 社会貢献部会(星・廣木・中澤)

・5月、地質の日のイベント、「街中ジオ散歩in羽村」の募集状況(4/10締切)の報告

7. 地質技術者教育委員会

・土質・地質技術者生涯学習協議会(CPD)より本年度会費の請求。

8. ジオパーク支援委員会(平田)

・松田会長から条件付認定の地元、天草ジオパークについての状況報告があった。

9. 地学オリンピック支援委員会(星)

・3/30に支援委員会を事務局で開催した。

10. 県の石支援委員会(辻森)

・とくになし

11. 125実行委員会(佐々木)

・最終委員会を開催予定(4/17)

以上

2019年5月25日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長(代表理事) 松田博貴
署名人 執行理事 斎藤 眞

表紙紹介：第10回惑星地球フォトコンテスト：ジオパーク賞

「新緑の六方の滝」

写真：齋藤敏雄(神奈川県)

【撮影場所】湯河原町鍛冶屋 新崎川上流(箱根ジオパーク)

【撮影者より】湯河原の新崎川の上流、沢沿いに登っていくと紫音の滝が現れます。その滝の横からロープに沿って登ると柱状節理の岩盤から流れる滝があります。六方の滝は女性的で優しい水流でした。

【審査委員長講評】六方の滝は、箱根火山のカルデラ形成期噴出物である幕山溶岩にかかる落差20mの滝です。作者は望遠レンズで滝上部をクローズアップしました。滝の飛沫に濡れた柱状節理の岩肌が美しく、後方の新緑と相まって落ち着いた雰囲気のある作品となっています。(白尾元理)

【地質的背景】地表に噴出したマグマが冷えて固まる際に、収縮してできる規則的な割れ目が「柱状節理」です。かつて、この滝の近くには登山道がありましたが、廃道となったため滝の存在もほとんど忘れられていました。2008年頃に箱根ジオパークのジオサイトにするための調査が行われましたが、アクセスが悪いため、今でも指定されていません。最近では沢沿いの踏み跡をたどってこの滝を見に来る人が増えているようですが、十分準備してください。(萬年一剛：神奈川県温泉地学研究所)